公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援リ・ハビリ初音			
○保護者評価実施期間	2025年　7月　22日	～	7年　8月　8日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	7人
○従業者評価実施期間	2025年　7月　22日	～	7年　8月　8日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　8月　22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラム ⇒集団活動の中でお子様が参加しやすい方法の検討や目標が達成できるように立案している	・保育士が活動を立案して、他専門職が参加のさせ方、個別目標の取り入れ等を提案しながら検討している。	・他専門職が提案が行いやすいように、立案共有する日を早める。
2	非常時の対応 ⇒緊急時の対応についてチームで理解し動ける体制を作っている	・看護師2人体制で医療的ケアがあるお子様が安心して過ごせる体制を作っている ・「気管カニューレが抜管した場合」「誤飲した場合」「てんかん発作が起きた場合」などシュミレーションしてチームでどう動くと良いかを2か月に１回検討している。	・職員が実際に動けることを目的に、長期休みの月を除いてシュミレーションを毎月行い、実施頻度を上げる。
3	意思決定を尊重している	・意思決定を導く上で本人の認知能力を把握することを大事にしている。また、ご本人んがどのようなことが好きでどのような環境で過ごされてきたのかを情報を取り入れた上で、本人の伝えて大ことは何かを推測するようにしている。 ・ご家族や他事業所とのすり合わせも行っている。	・意思表示の方法で道具を用いる場合、その道具の提供を継続して行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の体制 ⇒平日の営業で、利用者人数が多く、来退所が16時以降に集中した場合に人員に不安定さがある	・児短スタッフもいるため、16時以降に人員が手薄になる ・今後、ご利用者様の学年が上がるにつれ、来所時間が遅くなり夕方に集中することで16時前後の集中が予想される。	・人員が減るその時間帯には、利用者様対応を一番に電話対応は行わないように、業務の優先順位を共通認識を持つ。 ・予約を組む際に人員に対するご利用者様の受入れ人数の調整をする。
2	適切な支援提供 ⇒チームでの共有と課題改善のスピード感が早くはない	・サービス提供終了＝業務終了としているため、その後のミーティング当日には行っていない。記録は紙媒体に記載している。次のサービス提供前に打ち合わせを行うため共有や支援の改良が遅れる。	・デジタルでの記録に移行。最優先のことはサービス終了後に共有。それ以外は各自で記録（デジタル）を残し、次回サービス提供前に打ち合わせを行う。
3	地域とのつながり ⇒自社の他事業所との交流は進めているが固定化しているところもある	・送迎車が無いので、平日のサービス提供では自ら赴くことはハードルが高い ・社会資源の把握が十分ではない	・自立支援協議会での会議の参加